

第34回 平和体験学習

村は「平和の村宣言」の具現化の取組として、広島市へ中学生を派遣する広島平和体験学習事業を支援しています。

今回の平和体験学習には、村内の中学生5名と引率2名が参加。広島から学んだこと・感じたことを報告していただきます。



広島平和体験学習を終えて 占冠中2年 赤石 妃陽

私は、広島平和体験学習で、広島市の歴史について学びました。昭和20年8月6日の午前8時15分、広島に原爆が落とされました。原爆とは、原子爆弾のこと、物質の最小単位である原子の中心にある原子核を人工的に壊すと、高い熱や人体に危険な放射線などの大量のエネルギーが出ます。原子核が壊れることを「核分裂」といい、核分裂が短い時間に次々と広がる「核分裂連鎖反応」が起きると、瞬間的に非常に大きなエネルギーを生み出します。このエネルギーを利用したのが、原子爆弾です。

この原爆は、広島の人々に大きな被害をもたらしました。約14万人の人が亡くなり、8万数千人もの人々が大けがを負いました。原爆は、爆発の瞬間、非常に強い熱線と放射線を四方へ出しました。また、熱によって周りの空気が大きく膨らみ、爆風となって広がりました。そして、これら3つが複雑に作用したことが被害の原因です。また、放射線は長期間にわたって、人々を苦しめました。被爆者の田所明子さんは

「今までで一番つらかったことは何ですか」という私の質問に「お父さんが亡くなったこと、ずっといなかっただこと」だと答えてくれました。私は、それを聞いて、胸が苦しくなりました。明子さんは、他にも父親がいなかったことで、やりたいことができなかつたこと、片親に対する偏見があり、「父親のいない子は」と言われないように強く生きてきたこと、将来への不安がいつもあったことなどを話してくれました。

私が明子さんの話で、強く心に残ったのは、被爆後のお母さんの志でした。「悲しいこと、辛いこと、苦しかったことは過去、前を向いて生きていこう」という前向きな気持ちを聞いて、悲しいことがあったのに凄く思いました。原爆は、その時にいた人だけではなく、家族を失った人などの心を傷つけました。私は、今回の広島平和体験学習を通して、戦争の恐ろしさ、絶対にしてはいけないということ、今の平和の大切さを学びました。

広島平和体験学習に参加して 占冠中2年 金森 夕萁

私が広島平和体験学習に参加した中で強く印象に残っているのは、3日目の証言者のついででした。私たちに証言してくれたのは寺田美津枝さんです。寺田さんは胎内被爆された方で、お母さんのことについて話してくれました。

お母さんは自宅がある広島市草津から実家へ向かっている途中でした。市電の乗り換えのため、広島駅に降りるとB29が空に見えました。次の瞬間、目の前が真っ黒になりました。視力を失ったのです。当時20歳でした。お母さんはうずくまってしまいました。しかし5歳の長男と3歳の長女と後に寺田さんとなる、お腹の中にいる赤ちゃんのことを考えると、生き延びなければと思って、大きく手を振り「助けて」と叫びました。そして、近くに来た男性の腕をしっかりとつかみました。その時の男性は、「赤鬼に腕をつかまれたらと思った。全身にゴミをふりかけたようにガラスがささっていた。」と証言してくれました。その後、その後無事におなかの中の赤ちゃんを生み、後に女の子と男の子も出産しました。目が

見えないのに、立派に1回の怪我也させずに、5人の子どもを育てられました。そして、2013年に95歳で亡くなりました。

私は証言者のついでの中で「寺田さんはなぜここまで母が長生きできたと思いますか。」と質問すると、「子どもを思う気持ちだろうね、そして家族の助けがあったからだと思う。」と言っていました。今は亡き、寺田さんのお母さんとその家族の人柄に触られた瞬間でした。続けて寺田さんから「母は、せんそうと戦争の字を無くしてほしい。人間が人間を滅ぼす。殺すことはとてもあさましいこと。もう一度戦争をやるのであれば、子どもたちの顔を一目見させてからにしてください。」と語ってくれました。私は実際に被爆者の証言を聞いて、改めて、戦争の恐ろしさ、憎さ、愚かさを知りました。寺田さんの母と同じく、せんそうと戦争の字を無くすべきだと思います。

広島悲しい過去 占冠中2年 鈴木朱那

8月4日から7日まで私たちは広島に行ってきました。8月5日に平和記念資料館へ見学に行ってきました。そこには、原爆の被害状況などたくさん写真が飾られていました。

平和祈念資料館に行く途中で見られる有名な原爆ドームは、写真で見ると、すごく迫力がありました。原爆が落とされた後の写真を見て、とても激しいものだったことがわかりましたが、これが、暴風によるものだと聞いた時とても驚きました。原爆は、3千度から4千度あったようです。想像できませんよね。金属が溶けた写真を見て、体のどこかを怪我したとしても、よく人間が耐えられたなと思いました。

遺族が寄付した遺品には、服や帽子、お金など、たくさんのもので飾られています。ほとんどに血がにじんでポロポロでした。

目の前で家族が亡くなり、泣いてしまった母親の写真を見て、看取られながら亡くなった人もいれば、誰にも助けられずに亡くなってしまった人もいることがわかりまし

た。

6日に、証言のついでに行きました。私の所は、寺尾興弘さんがいました。寺尾さんは戦争の隅から隅まで詳しく教えてくれました。なので、どうして原爆が落ちたのかも知ることができました。

私は平和祈念資料館でもたくさん学ぶことがありましたが、実際に被害にあった寺尾さんの話のほうが強印象に残っています。原爆の被爆者が皆揃って言

った一言があります。それは「爆撃を経験するのは、私たちだけでよい」ということです。私は、戦争は悪いものだと思います。もう二度と戦争しない世界になってほしいと強く思いました。

最後になりますが、広島へ行かせてくれた皆様、本当にありがとうございました。

